

特殊金属エクセル 整えることが可能とな
(社長・谷口毅氏)は、

埼玉事業所(埼玉県比企郡ときがわ町)で、電気式ベル炉は特殊精密金属材料の高度化ニーズに対応し、材料特性の安定化や生産性向上を図り、製品開発を加速するため、独自技術を織り込んだ設備更新を実施している。主な更新投資では非鉄金属用に展開する電気式ベル型熱処理炉をこのほど稼働開始し、車載材料向け半田塗布ラインは10月に本格量産稼働を予定する。

更新する金属コイル用熱処理炉は従来のガス炉から電気炉に切り替えることで、老朽化に伴う設備トラブルの事前解消を狙う。さらに、ターゲットとする温度での焼鈍調整が容易になるため、金属の内部組織をより精緻に

鋼向けをメインとして社内でも多くの技術実績があり、これを非鉄金属用ベル炉として展開した。従来のガス加熱式と比較して温度プロファイルが従来の5分の1程度まで安定化したことで、材料特性の安定化が期待される。

車載向け半田塗布

特殊金属エクセル

精密金属材料の高度化ニーズに対応 埼玉事業所で相次ぎ設備更新

電気式ベル炉、半田塗布ラインなど

インでは、2021年安定した品質を工程内で作りこむことに加え、949(自動車産業)の国際品質マネジメントシステム)認証を取得実なものとする。

度からIATF16949(自動車産業)の国際品質マネジメントシステム)認証を取得実なものとする。



改造した多機能・張力圧延機

を開始し、6月からは受託での試験にも対応しており、すでに多くの問い合わせを受けている。

度からIATF16949(自動車産業)の国際品質マネジメントシステム)認証を取得実なものとする。

度からIATF16949(自動車産業)の国際品質マネジメントシステム)認証を取得実なものとする。

